毎月九日 お肉でも食しながら、俳句を二句はどひわろう

## 玉翠俳句王

にくの会・誌上句会

先生の句

国の忌をいくつ増やして百日紅 松葉菊手紙のこない家であり 風鈴は海の中まで揺れている ●S47卒 対馬康子

我らが対馬先生が、永年の俳句活動・国内外の俳句振興への貢献により文部科学大臣表彰を受けられるという嬉しいニュースがありました\(^o^)/

夢さそう喜寿を迎えて初高座 雛の町シャイな乙女の背は光 那谷の里翁忌重ね蕗のとう ●井上榮々峰(S33卒)

雪柳枝垂れて白き滝となり 光降るこぶし咲く丘淋しいな 生垣は花と見紛ふ赤芽柏 ●大西千女

白蝶の迷い込みしや屋島城 古き友賀状で交わす会話かな 掃初や積ん読多き古紙を出し ●頼則紗頼(S34卒)

折りづるの直線伸びて去年今年 桔梗の五裂の色の深さかな 寒日和富士は翼を休めたり ●岡崎洋々(S37卒) 踊り果て鳴門の海に月さやか 雪女郎自動改札とほりぬけ 懐手一言居士を通しけり ●田阪千十(S38卒) とんぼうに空がぐるぐる回りけり 曲がりくねつたこの道に福寿草 カオスとノモスの波が寄せくる春の海 ●佐々木松翠(S47卒)

秋深しとつくり寝てる旅の宿 しやぼん玉麦わら帽子あとを追い 遠き日に吹いても帰らずしやぼん玉 ●土居六条(S47卒)

普段着の父の手を引く初詣 菜の花や女もてなすちらし寿司 病室の窓のまぶしさ鳥渡る ●原久美子(S47卒)

乾坤の間に寒蛸干されけり 海境に己が影落とし青鷹 母のまゆ授かりし児よ土筆萌ゆ ●豊澤壊殻(S50卒) 冬怒涛茶筒の中に入りきらず 大陸の動きしむかし粥柱 菜の花やをとこばかりが蒸発し ●坂田光義(S50卒)

月光はへいのうちそとかはりなく 生き死にも緩慢なるやインド暑期 ぼうたんや美少女もいる雑技団 ●和田芝女(S50卒)

澄みきつたアクアマリンや秋の空 父の手に導かれつつ初稽古 セーターの毛玉も愛し君が腕 ●白川夕帆(S52卒) 満州に降りたつおとこ冬帽子 炎昼のバンコク空港あぶら汗 小春日やあなたの夢をみたような ・中山髭丸(S50卒)

秋場所や行司装束出雲の印 冬菫しゆはきませりと歌ひけり 腕に鷹日の出待つ人ありにけり ●松田欣女(S52卒)

雲の峰髪濡れしまま起立・礼 墨の香の喜寿の手習ひ冬麗 わが胸に人魂ひとつ春の夜 ●長尾らいむ(S53卒)

さるすべりゆれてみどりごねむる風 夏座敷猫は乙女の夢を見る わかさぎも張りあいなかろ温い冬 ●市川ねこむすめ(H06卒)

61

連絡先 岡崎洋 (S37卒) okazaki@tokeilaw.com 坂田晃一 (S50卒) midories@cocoa.plala.or.jp 松田欣末子 (S52卒) matsudakimiko@gmail.com 和田邦子 (S50卒) wadakuni@ae.auone-net.jp

第34回東京玉翠会総会 [テーーマ] つなぐ、こえる、我が母校。